UIFA JAPON NEWSLETTER

NO.60 Aug. 25, 2004

■主な内容

UIFA JAPON　2004年度第12回通常総会報告
総会記念講演会　「ハウステンボス・エコシティーへの挑戦」池田武邦氏
第32回海外交流の会　「フランス文化の多様性と都市再生」三宅理一氏
第14回 UIFA 世界大会 いよいよ開催へ
私らしく働く―地域で、組織で　№6
　育ててゆく・北海道・花のあるまちづくり
この指止まれ　「世田谷区立小学校のトイレ改修を見る」
研究余滴
旧同潤会大塚女子アパートの保存・再生活動から
役員会報告

総会記念講演会　池田武邦氏

UIFA JAPON　2004年度第12回通常総会報告

2004年6月12日(土)13時から、健保プラザ集会室において第12回総会が開催された。小川会長が研究のためスウェーデンに出張中のため、松川副会長が小川会長からのメッセージを代読した後議事に入った。

最初に事務局から、会員数101名中参加者が委任状と合わせ過半数の51名を上回るため総会は成立しているとの報告があった。

次に第１号議案として2003年度の活動報告、それに伴う一般会計と特別会計の収支報告、監査報告の４つがまとめて説明され、満場の拍手をもって承認された。

役員が改選の年であるため、第２号議案で理事会案として中原暢子名誉会長、小川信子会長、正宗量子、松川淳子両副会長、川崎衿子、谷村留都、日高たか子、中井和子の４名の総務担当理事、山田規矩子、石川弥栄子、吉田洋子の３名の事業担当理事、渡辺喜代美、須永俶子、中野晶子の３名の広報・渉外担当理事、栗山楊子、飯田とわの２名の会計担当役員、小渡佳代子、東由美子の２名の監事が示され、拍手により承認された。

今後２年間はこの体制で運営されることとなり、これまで役員として会のために尽力してきた柳沢佐和子、吉田あこ、飯島静江の３氏が退任されるため、感謝の言葉とともに会場から拍手が送られた。

第３号議案は活動予定及び、一般会計と特別会計の予算案について説明、承認された。

昨年度は10周年記念事業の一環として東京ウイメンズプラザの助成金を得て「UIFA　JAPON 設立10年のあゆみ」についてのＣＤが作成された。その報告と総会出席者には配布、全会員に発送されることが付け加えられ、13時35分に閉会となった。　(須永)

総会記念講演会　池田武邦氏

環境会計－10年で収益1700億円
「ハウステンボス･エコシティーへの挑戦」

寺本晰子

焦土と化した国土復興の力に

近頃の危うい社会現象へのまなざし､自然環境､水辺環境､生態系の循環環境への思い､「文化」と「文明」の差異への持論までを、自身の体験－ピラミッドとほぼ同じ高さをもつ霞ヶ関ビル建設の話、雪の日にも快適な人工環境、雪は見えない雲のなかにいる超高層オフィスでの執務等－自然体感を通して語られた講演会でした。

工業用地として埋め立てられた不毛な土地

「ハウステンボス」、オランダ語の「森の家」は、緑豊かなとりわけ美しい環境、ベアトリス女王が住む宮殿をさしています。この命名に、不毛な埋立地を、緑豊かなすばらしい環境に生まれ変わらせようとの願いが込められている、と配布資料に記されています。

ハウステンボスの地は1970年代工業団地建設のために埋め立てられ、諸状況の社会変化等による工場誘致はかなわず、放置されていました。着工の1988年当時まで、あちこちにあるようなごみや建設廃材などを埋めた、草木は育たず、魚も寄り付かない環境、懸案の土地で、ここから生態系の回復・挑戦が始められました。

環境会計／エコシティーへの挑戦

埋立の不毛な土壌を入れ替えての植樹、40万本の樹木が植えられて、虫・鳥たちを呼びこみ、生物の循環系を、さらに湾の水質の改善をもくろみ、水辺空間の生態系の回復を視点に運河・掘を削堀した計画、プロジェクトの対処療法でなく抜本的な取り組みの説明を聞き、是非近いうちに、一度訊ねてみたいところになり、そして、機会を得て、環境会計の仕組みや収支計算についてさらに伺いたいところとなりました。

総会風景

'92年オープン当時の40万本苗木植林

育ち始めた森

出典：「ハウステンボス･エコシティーへの挑戦」

第32回海外交流の会　三宅理一氏
「フランス文化の多様性と都市再生」

北本　美江子

三宅理一氏

2004年７月17日(土)午後、三田の女性と仕事の未来館で、UIFA JAPON 海外交流の会が行われました。梅雨は結局なかったらしい、といううんざりする暑さの中、著名な先生のお話が伺えるということで、静かな館内の一画は25名ほどで賑わい、華やいで見えました。

三宅先生のお話は中身が濃く、久しぶりに学生時代の講義を聴くような緊張感で、ノートをとるのが追いつかないという感じでした。

先生は東大建築学科修士を修了後渡仏され、５年間でソルボンヌ大学修士修了、ボザール卒業という経歴をお持ちで、東大で工学博士を取得されて、芝浦工業大学の後、現在、慶応大学で教鞭をとっておられます。著書も多数ですが、歴史的、文化的側面から建築都市研究をなさるところから、さまざまなプロジェクトに関わり、世界各地の保存修復、マスタープラン作成に携わっておられます。

直近では「日仏都市会議2004」を工業技術会理事の立場から企画されており、鎌倉とニース（６月に開催済み)、金沢とナンシー、横浜とリヨンの姉妹都市それぞれで、都市の成り立ちに始まり、都市的広がりからディテールに至る空間に関わる議論を、市民参加で興していくという試みをされているそうです。当日フランスから帰国されたばかりで、エールフランスは１日３便も日本便があるとのこと、有名建築家たちの中には毎週往復する方や、日帰りなさる方もいらっしゃるそうです。

世界は産業化が進み、今や「文化」がキーワードになっており、生活、心、精神、歴史といったことが空間形成を議論する上でも欠かせなくなっているとのことです。フランスにおける文化の多様性の前提としては､以下のことが言えます。

１　都市基盤　中世、近世、近代を通して築かれたもの
２　歴史性　「遺産」としての建築と都市
３　公共性　私権制限の意義と景観
４　混在性　さまざまな価値と人間が混じりあう現代性
５　創造性　クリエーションを生み出し支援する都市づくり

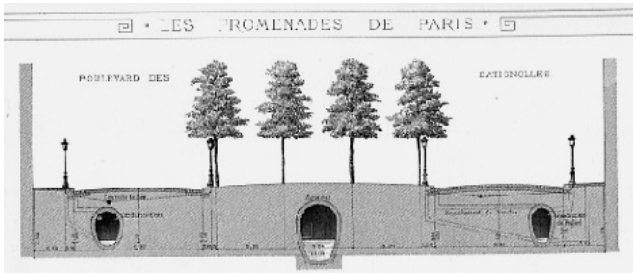
この前提について幅広く、奥行き深く、また日仏都市会議の姉妹都市を例に､具体性を交えて講義していただいた後に､20世紀の展開に話は進みました。

１　都市の膨張と郊外の発展　19世紀都市モデルからの転換
２　交通ネットワーク　都市内、都市間交通と高速化
３　モダニズムの浸透　新たな建築デザイン
４　集住への新たな提案　集合住宅モデル

そして最後にグランプロジェ以降、現在の都市づくりのキーワードとなっている文化施設として、以下を挙げられました。①美術館　②劇場・オペラ座　③文化会館　④庭園

整備手法としてはフランスの伝統的な国家主導、大型プロジェクト方式で、内容的に地域密着型で地域なりの特質を生かした適度の規模の施設を、地域振興のための地方助成金を用いて、近代遺産の保護と活用となるコンバージョン型の文化施設が主となっているそうです。

パワーポイントを用いての講義でしたので、フランスへ行くときはヤフーフランスの文化省サイトで、都市ごとの催し物などをチェックしておくといい、とのアドバイスもありました。お話の中には歴史的に著名な建築家の名前や、街路基準など技術面の歴史的なことや、地名やフランス語の博学がふんだんに盛られていて、私も賢くなった錯覚に陥ることができました。



1867～1873年出版のアルファンの本より（三宅理一）

第14回UIFA世界大会いよいよ開催へ

2004年９月１日(水)－５日(日)、UIFA 世界大会が、フランスの南部ミディ・ピレネー地方の主要都市トゥールーズで開催されます。３年ぶりのこの世界大会に、又懐かしい UIFA の会員が世界各地からおよそ80名集まり、日本からは会員が16名参加します。それぞれの仕事の成果を持ち寄って活発な議論が交わされる事となります。

大会のテーマは、三つです。

1. 環境破壊(自然の大変動)＝洪水、地震、台風、戦争、又はテロに対する女性建築家の関わり。
2. 男性主流の世の中で、女性建築家がその可能性を示し世界の進化のために貢献するために、直面しなければならない条件とは何か.
3. 無名の女性建築家が社会に認知されるまで。

これらのテーマの中に、各国のお国柄、世界共通の今日的課題等、日本からだけでは分からない「新しい考え方」に出会えることでしょう。

日本からの発表は、UIFA JAPONの「The Past, Present and Future of Women Architect-A Look Back on the Past-10 Years of UIFA JAPON（女性建築家たちの現在・過去・未来－UIFA JAPON 10年の歩みを振り返りながら)」､松川淳子の「Learning from the Restoration Efforts of Worldwide Earthquakes（世界の震災復興活動に学びながら)」､中野晶子の「Combined Action for Survival-Insurance or Evacuation（家族が生き残るための共同作戦－保険か疎開か)」がエントリーしています。パネルの発表は、日本から５名を予定しています。

トゥールーズ市街での建築見学ツアーや、大会のもう一つの魅力であるポストコングレスツアーについては、次回 NEWSLETTER に詳しくご報告致します。(中野)

＜組織で＞
育ててゆく

岡村　珠穂

■会社が育ててくれた頃

私が昭和建設に入社してから、もう９年になりますが、その頃会社は社長を含め７名というとても小さな組織でした。私は設計部にいましたが、「図面を引く前に現場を知れ」という社長の考え方もあり、社長について打ち合わせに、現場にと、大変ハードな毎日でした。築30年以上の木造住宅の増改築では、きちんとした図面が残っていない為、実測し現況の図面を作成するのに大変な思いをしました。また、郊外の木造一戸建て住宅の新築現場を半分任された時は、ほぼ毎日現場に行き、工程の管理、資材の発注管理等をし、監督というより会社との連絡係と言った方が良いのかも知れませんが、毎日泥と埃と汗にまみれて現場を駆け回っていました。その現場は一つの建物を基礎工事から完成まで見た初めての現場で、基礎伏図から矩形図、床組、小屋伏せと、解らないことだらけの図面と、出来上がってゆく現場とを見比べながら建物がどのようにして出来上がってゆくのかを、まさに感動しながら学んだことを覚えています。その後、ＲＣ造やＳ造の改築も現場サイドから体験させてもらいました。一人目の子供が１歳になるまで産休を取り、その後は週に２，３日図面を描きに会社に復帰しました。現場には行かず、製図に集中しましたが、打ち合わせでも現場にいた頃の経験がとても役に立っていました。夢のマイホーム新築現場で、設計者・監督として、ちょろちょろ走り回る息子を気遣いながら、まだ歩けないもう１人の息子を背中に、手には図面を持ち毎日のように現場に足を運んだ事は一生忘れられません。

マイホーム新築建前の現場にて

■子どもに育てられる今

私は会社が私を育ててくれた事にとても感謝しています。始めは沢山失敗もし、会社にとっては役に立たない事も多々あったと思います。それでも少しでも多くの経験の場を与えて貰えたのは、大変幸せでした。現在、三度目の産休中ですが、昔現場を駆け回った様に３ヶ月の娘を抱えながら２人の息子を追いかけ回し、育児奮闘中です。時には鋸や、金槌をおもちゃにして…私が好きなんです。今は子供達に母親が育てられているのかもしれません。そしてそれは同時に設計者となる時の私に力を貸してくれる事もあるのでしょう。これからまだ挑戦してみたい事は山程ありますが､何をするにも、体で体験し、目で見て多くの事を学び取る姿勢は大切にしていきたいと考えています。

＜地域で＞
北海道・花のあるまちづくり

中井　和子

■フラワーマスター制度

美しい花があふれた景観の街を訪れると、その町で暮らす人々の暖かな気遣いと我が町への愛着と誇りを感じ取ることができます。旅行者や来訪者にとっても、魅力ある街並景観の町として認識されます。

そこで北海道では、地域の特徴や個性を活かした北国にふさわしい「花のまちづくり」を展開するため、平成５年度から「フラワーマスター認定・登録制度」という事業を、北海道全体で展開しています。

北海道内には212の市町村があります｡各地で地域の特色を活かした花のまちづくりが行われていますが、ガーデニングの流行もあり、益々盛んになってまいりました。北海道のこうした花のまちづくりをさらに広げるとともに、地域や街並み景観に配慮した花づくりのあり方や、花の育成管理に関する知識と技術の向上を目ざす、地域のボランティアリーダーが「フラワーマスター」です。すでに1,000人以上の登録者が活躍しています。

花のまちづくりと景観に関するミニ知識と、花の育成管理の知識・技術を北海道主催の認定講習会の講義で学ぶと、北海道知事からフラワーマスターとして認定されて、推薦した各市町村に登録されます。各市町村からの推薦条件は、園芸に関して地域で経験のある18歳以上の者で、花のまちづくりの地域ボランティアリーダーとして活動が期待できる人物を、市町村長が推薦します。

■花づくりから街づくりへ

私は、平成５年度からフラワーマスター認定講習会の講師として、花のまちづくりにおける「景観ミニ知識」を講義しています。簡単に内容をご紹介すると、町並景観や地域景観を魅力あるものとする様々な取り組みの一要因として花づくりを捉え、まちの景観の読みとり方、連続した景観形成(シークエンス景観)を意識した花づくり、点・線・面で考える花づくり、環境色彩と花づくりなど、よりシンプルで効果ある魅力的景観形成に結びつく花づくりの講義をしています。

花づくりを通して、市民が街並景観やまちづくりに関心をもち、住民参加のまちづくりが活発になればたいへん喜ばしいことです。花づくりの実践に参加することから、街並景観の街路樹や街路灯のあり方、広告・看板や路面舗装のデザイン、ゴミ回収の問題などへも注意が及び、我が町のまちづくりに対する関心が高まれば、花づくりを媒介に地域コミュニティが活性化して行きます。

地域のまちづくりや景観形成では、人づくり、場づくり、仕組みづくりが重要です。「花のまちづくり」は、花が咲いたときの楽しみと喜びが直接伝わってくることから、地域の人々が取り組みやすいまちづくり活動だと思います。北海道は、５月から８月が花の季節です。花いっぱいの美しい北海道の景観を、見に来てくださいね！

NO.60 Aug. 25, 2004

Union Internationale des Femmes Architectes Japon

UIFA JAPON 事務局
〒102-0083
東京都千代田区麹町２－６－５
麹町 E.C.K.ビル ㈱生活構造研究所内
Phone: 03-5275-7861 Fax: 03-5275-7866
E-mail: uifa@LIQL.CO.JP
発行 2004年8月25日

THE SECRETARIAT OF UIFA JAPON
c/o LABORATORY FOR INNOVATORS
OF QUARITY OF LIFE
DAINI-OSHIDA BLDG.
2-5-4, KOUJIMACHI,CHIYODA-KU
TOKYO, JAPAN 〒102-0083
PHONE :+81-3-5275-7861
FAX :+81-3-5275-7866

UIFA JAPON この指止まれ!
「世田谷区立小学校のトイレ改修を見る」

1999年のこの画期的な改修に関する取り組みは、子供達との協同の物づくりとして世田谷区の４校で始まった。５月20日(木)トイレ改修の設計者である小林純子さんの案内で区立山崎小学校と船橋小学校を見学させていただいた。

区立山崎小学校
入り口に、手漉き和紙のアート作品が飾られ、子供達の作品発表の場になっている。手漉き和紙はこの学校の独時のプログラムである。

区立船橋小学校
手洗いの場は、気軽に立ち寄れる動線上にあり、明るい場にしようと子供達制作の絵タイル（右写真）がはめこまれ、それが取り替えられるように工夫されている。白い人造大理石を採用し、オシャレな空間になっている。随所にきめ細やかな配慮がされており、建築家＝小林純子の技が光る。

・豊かな色彩と空間：各階異なる色のモザイクタイル、木目の壁面。
・大きなガラス窓。半円型の物置台やカーブした壁面。
（お互いの視線をやわらげる効果があり 優れた設計の手法）
・数より質を：従来の学校トイレよりも、ゆったりとした空間。
・くつろぎの空間：ほっとするベンチ、木肌を生かした壁面。
・目をひくサイン：生徒の描いた絵.
・清潔感：掃除しやすいように床と和便器をフラットに。床に器具を置かない。掃除道具入れの乾燥や使い勝手への工夫。

改修された男子トイレ

生徒作品のサイン

このプロジェクトが区内の学校のトイレの改修に様々なアイデアを提供して行った事は間違いなく、女性の建築家の知恵と子供達へのやさしさは、今後も他の地域にも引き継がれて行く事が強く望まれる。（中野）

研究余滴

小川信子

ストックホルムは、ガムラスタンを除いて周辺部の地域は開発ブームといっても良いほどの状態です。2002年に発表された計画が実施されています。都市の中の既存の建物（住宅）の生活内容の変化による改造、水辺にあった工場の跡地再開発など、様々な理由によって改増築や新築が行われています。建設会社による新住宅の計画は、いままでのスウェーデンの住宅のイメージを変えるものでデザインも全面ガラスを用いた超モダンな造形などあります。私の師 Sven Thiberg 先生は“acceptere inte”という本を書かれ、ある意味では現在の傾向に批判的な意見を持っておられるようです。私の研究対象の地域“Gustavsberyg”は、現在の動きの中で対応しつつありますが、自治体の建築計画部が基本計画をふまえて、企業が売った土地を買い戻して、家を売るために顧客を誘うような方向に行くのに歯止めをかけています。伝統的な1800年代の住居や工場の建物を保存し、使用しつつ、この地域の遺産を守りながら現在の生活空間を作っています。

旧同潤会大塚女子アパートの保存・再生活動から

旧同潤会大塚女子アパートメントは、様々な活動があったにもかかわらず、昨年解体されました。しかし、その後も居住形態追跡調査、解体差し止めの訴訟、玄関ポーチ飾り柱移設事業など、活発に活動は継続されておりました。そこで訴訟や調査が終了したのをきっかけに、ここ１年の活動の報告会と、このような活動を次の保存につなげていく討論会が６月25日開かれました。報告は、１「大塚女子アパートメント調査」（建築学会）、２「大塚女子アパートメント東京地裁判決」（裁判事務局）、３「旧同潤会大塚女子アパートメントの居住形態追跡調査および価値の広報活動」（生かす会）、４「私の同潤会展」その後（開催事務局）、５「旧同潤会大塚女子アパートメント玄関ポーチ飾り柱移設事業」（発起人）と多岐にわたりました。これからの活動紹介も行われ、その内容は、大塚女子アパートメントな女性たちー住まいと暮らしと女たちのことー（仮題：本の出版）、日本建築学会今期大会でフォーラム（８月31日北海道大会）歴史ストックを生かしたまちづくり（NPO 地域再創生プログラム）の創設など多様でした。討論のコメンテータには、鈴木成文・前野まさる・富田玲子・佐藤滋・内田青蔵などのほかに黒田純吉・水谷裕美・吉原美由希氏など裁判をささえてくれた弁護士たちも特別参加くださり充実した討論会でした。（渡辺）

役員会報告
第２回 2004年５月19日(金)
議事；トゥールーズ大会の登録、19名の参加を確認。総会と記念講演会の段取り等協議。役員改選に伴う新理事の候補を推薦。
第３回 2004年６月３日(木)
議事；総会のための決算報告案、講演会、新旧役員の交代案などを検討。ＵＤ小冊子の発行を8月末と確認。
第４回 2004年７月12日(月)
議事；各部会報告。ＮＬ55号59号とパンフを世界大会に持参。第32回海外交流の会の段取り調整。総務発行「UIFA JAPOND'AUJOURD'HUI」の発行を承認。
※８月の理事会は休みです。

編集後記：溌剌と活動されている様子が伝わる原稿に元気を戴いています。（石川） 湿った海風と強い日差しの中の江ノ島新水族館を見学。夏の一押し（井出） トゥールーズでは、懐かしい人々との再会や、中世フランスの魅力に迫ることが出来るでしょうか。（中野）定期的に草花のメンテナンス。時間の経つのが早いこと。（須永）洪水水害、酷暑、そして戦争そして多くの死。人間のおろかな生き方、自然への憧憬のなさの結果といえる。今期の UIFA 国際会議テーマは＜環境破壊、自然の大変動への女性建築家のかかわり＞皆様のご意見をお待ちします。（渡辺） 理事会からのお知らせ D'AUJOURD'HUI と共にニュースレターをご愛読ください。（編集長 田中）